
地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第 115 号 会 報 1987年 6 月 1 日

目 次

I 第81回総会ならびに講演会	1
II 田中館賞審査報告	2
III 会 長 挨 拶	5
IV 運営委員会報告	6
V 決算報告および予算案	7
VI 第82回総会ならびに講演会のお知らせ	10
VII 新 入 会 員 等	11
VIII JGG編集委員会に関する学会規約改正について	12
IX 会員名簿改訂のお知らせ	13
X 広 報 活 動	14
XI 学会財政事情	14
XII シンポジウム等案内	15
XIII そ の 他	17

I 第81回 総会ならびに講演会

第81回総会が4月6日に千葉大学のお世話で同大学法経学部において開催された。鶴田議長選出の後、大会委員長の木下会員の挨拶があり、引続き木村会長から田中館賞の授与、審査報告がなされた。田中館賞は別項に掲げる四名の会員の論文に対し与えられた。

続いて木村会長挨拶の後、運営委員会庶務報告、会誌発刊状況報告が行なわれた。

議事に入り、力武常次会員(1972年6月長谷川記念杯贈呈)を本学会名誉会員に推挙したい旨の

運営委員会提案が満場一致で承認された。続いて61年度決算案、62年度予算案が審議され、学会特別会計を報告として追加するよう金田会員より注意があり、これを追加して決算・予算案は可決された。認められた決算・予算案は別項に掲げる。

次期総会が信州大学のお世話で開催されることが百瀬会員により確認された。また次々期開催地候補として住友会員より電波研が提案されたが、松浦会員が受諾の旨を表明された。

中沢評議員より木下会員をはじめとする千葉大学の皆様に感謝の意が表明され、無事閉会した。総会の式次第は次の通りであった。

- (1) 開会の辞
- (2) 総会議長指名 (鶴田運営委員)
- (3) 木下大会委員長挨拶
- (4) 田中館賞授与
- (5) 田中館賞審査報告 (別項Ⅱ参照)
- (6) 木村会長挨拶 (別項Ⅲ参照)
- (7) 運営委員会報告
 1. 庶務報告 (松本運営委員)
 2. 会計報告 (向井 ")
 3. JGG発行状況 (河野 ")
- (8) 議 事
 1. 名誉会員推挙の件
 2. 決算、予算案の審議
 3. 学会誌編集委員会に関する規約改正について
 4. 次期、次々期開催地
 5. その他
- (9) 謝 辞 (中沢評議員)
- (10) 閉会の辞

Ⅱ 田中館賞審査報告(木村会長)

推薦をうけた下記4件の論文について、4月5日開催の評議員会で慎重審議の結果、いずれも大変優れた業績であることが確認され、田中館賞の授与が決定した。以下にその内容の要点を述べる。

地球電磁気・地球惑星圏学会名簿訂正用紙

会 員 番 号		0 2 7 -	
氏 名			
ローマ字(姓,名)			
現 住 所		〒 -	電 話 () -
	名 称		電 話 () - 内線
	所属部課名		
	所 在 地	〒 -	
最 終 学 歴		年 次	西 曆 年 月 卒 業 修 了
専 門		連絡先	1. 現住所 2. 勤務先

運営委員会提案が満場一致で承認された。続いて61年度決算案、62年度予算案が審議され、学会特別会計を報告として追加するよう金田会員より注意があり、これを追加して決算・予算案は可決された。認められた決算・予算案は別項に掲げる。

次期総会が信州大学のお世話で開催されることが百瀬会員により確認された。また次々期開催地候補として住友会員より電波研が提案されたが、松浦会員が受諾の旨を表明された。

中沢評議員より木下会員をはじめとする千葉大学の皆様に感謝の意が表明され、無事閉会した。総会の式次第は次の通りであった。

- (1) 開会の辞
- (2) 総会議長指名 (鶴田運営委員)
- (3) 木下大会委員長挨拶
- (4) 田中館賞授与
- (5) 田中館賞審査報告 (別項Ⅱ参照)
- (6) 木村会長挨拶 (別項Ⅲ参照)
- (7) 運営委員会報告
 1. 庶務報告 (松本運営委員)
 2. 会計報告 (向井 ")
 3. JGG発行状況 (河野 ")
- (8) 議 事
 1. 名誉会員推挙の件
 2. 決算、予算案の審議
 3. 学会誌編集委員会に関する規約改正について
 4. 次期、次々期開催地
 5. その他
- (9) 謝 辞 (中沢評議員)
- (10) 閉会の辞

Ⅱ 田中館賞審査報告(木村会長)

推薦をうけた下記4件の論文について、4月5日開催の評議員会で慎重審議の結果、いずれも大変優れた業績であることが確認され、田中館賞の授与が決定した。以下にその内容の要点を述べる。

【論文名】 ファブリーペロー干渉分光計を用いた中緯度における熱圏の研究

地磁気擾乱時に熱圏大気の温度が上昇しサブオーロラ帯にSARアーク (Stable Auroral Red Arc) が出現することはよく知られていたが、精度の高い温度観測はこれまで実施された例がなかった。その理由はSARアークは数100レーリー以下で弱く、従来のファブリーペロー干渉計では一本の干渉フリンジのドップラー量から温度を算出するため2時間程度の積分時間を要したためである。

岡野会員はこの問題を解決するため10本の干渉フリンジを同時に通過させるマルチプルゾーンアパチャ方式を考案し、感度を一挙に10倍に上げ、従って時間分解能を10分程度に縮めることに成功した。同会員はこの装置と子午面走査型多色測光器を用いて1978-79年の間米国東部ニューヨーク州に於て熱圏大気温度とSARアークの観測に成功した。

まず磁気緯度54°のアルバニにおける観測からサブストーム時のオーロラジェット電流の増大に伴い400Kもの温度上昇があり、ジェット電流の位置から離れるにつれて増分が減少すること。この温度上昇はジェット電流増大から1時間程度遅れること、又230km離れた2点観測からSARアークとオーロラジェット電流の間の密接な関連性を調べ、SARアークの発達にともないアークの中の温度が200K上昇することなど数々の新しい知見を得た。このように新しく開発された高時間分解能ファブリーペロー干渉計がこの分野の研究に大きな貢献をすることを示した。

109号 岩坂泰信会員

【論文名】 レーザーレーダによる成層圏エアロソルの研究

岩坂会員は、先ず成層圏エアロソルの粒形分布を求めるために、ルビーレーザーとYAGレーザーの2波長によるレーザーレーダ観測システムを作り、このシステムによりエアロソルの後方散乱係数の高度分布と粒形分布を求めることに成功した。

また、ルビーレーザーによるレーザー光の偏光が散乱によって部分的に解消することに着目して散乱光の偏光測定を行うことにより、成層圏エアロソルの形状や化学組成に対する情報を得ることに成功した。これらの手法により長期間のエアロソル観測を行い、1974年のフェゴ火山、1980年のセントヘレンズ火山、1982年のエルチョン火山の爆発等に伴う火山噴出物の影響により成層圏エアロソルの量が増加するだけでなく、形状や化学組成も変化することを明らかにした。

岩坂会員はこれらの優れた成果に加えて、これらの観測を自ら昭和基地でも行い南極冬季の成層圏エアロソル増大現象、及び光学的特異現象を世界に先駆けて見つけた。これらは南極エアロソルの研究を大きく発展させることに貢献するものである。

110号 小島正宜会員

【論文名】 惑星間空間シンチレーション観測による太陽風の立体的構造の研究

名古屋大学空電研究所においては、昭和46年以来太陽風に関する情報を得るため、69 MHz VHF 帯の電波星からの電波の惑星間空間に於けるシンチレーションの観測が行われてきているが、小島会員は地上の多点で同時観測を行う場合の同期を全自動独立同期方式で行うシステムを開発した。また昭和57年には、太陽により近いところの太陽風を観測するため、327 MHz UHF 帯でシリンドーパラボラアンテナを用いた独自の3点観測システムを完成した。

これらの観測システムは世界的に高く評価され、米国カリフォルニア大学（サンディエゴ）の新しいシステム建設にも指導協力を要請されその完成した設備による観測にも参加した。

これらの観測では特にデータ処理が重要であるが、電離層シンチレーション等の影響を除くフィルタリングの影響を考慮した解析法を開発し、シンチレーションから太陽風の速度を求める際にシンチレーション解析像に異方性の効果が無視できないこと、またその異方性は太陽風内の電子密度の不規則構造が流れの方向でなく惑星間空間磁場に沿った方向に長いことによることを見つけた。

このほかシンチレーション観測データを最大限に活用して太陽風速度の緯度・経度方向分布の太陽活動に伴う変遷をも明らかにし太陽風の研究に大きな貢献をしている。

111号 荻野竜樹会員

【論文名】 MHD シミュレーションによる太陽風と地球磁気圏相互作用の研究

荻野会員は、3次元の電磁流体学的（MHD）モデルを用いた計算機シミュレーション手法により太陽風と地球磁気圏相互作用の研究を行い、磁気圏現象と極域現象を磁力線に沿って結びつける投影の手法を確立した。本研究ではこの手法により惑星間磁場の向きに依存した地球磁気圏と極域のプラズマ対流および沿磁力線電流パターンのMHDモデルを初めて与えることに成功した。

すなわち衛星観測の解析から知られている region 1 と region 2 電流系に相当した沿磁力線電流及び衛星観測から提示されてきた極域プラズマ対流と矛盾のない対流パターンをMHDシミュレーションにより再現し、それらの電流の駆動機構についてもプラズマ間の粘性の効果と磁気リコネクションの効果を区別して明らかにした。

これらの研究は1979年頃から米国 UCLA や NRL 等で始められていたがこれらは主として磁気圏の構造と磁気圏尾部のダイナミクスに力点がおかれており、荻野会員の場合は、更に一步進めて磁気圏の現象を磁力線に沿って投影して電離圏現象と比較できるようにしたことが重要な成果である。

Ⅲ 会 長 挨拶

木 村 馨 根

学会名称変更に伴う大変重要な時期に会長に選ばれましてその重責を感じております。非力ではありますがベストを尽くしたいと思っておりますので皆様のご支援をお願い致します。

第81回の総会並びに講演会は千葉大学の木下先生の行き届いたお世話で盛会裏に終ることが出来ましたことを感謝いたします。

さて、学会名称変更は前回の総会で決議され新名称は4月の上記の会から使い始めておりますが、当初不自然と思われていた名称も使っているうちに何となく親しみを感ずるようになってまいりました。本学会は1947年(昭和22年)創立以来今年でちょうど40年になりますが、この節目に名称が変えられたのは大変よかったと思っております。この機会に色々新しい考え方、企画なども取り入れ、名称だけでなく、実態も新しくなることが必要かと存じます。

次に本学会の最近の重要な事項としまして、長年編集委員長として学会誌JGGの刊行に大変努力をして下さった力武常次先生が辞意を表明しておられることがございます。当学会では次期編集委員長を決める規約がありませんので早速その規則を作ることから始める必要があり、現編集委員会のご意見を参考にして運営委員会で議論を致しております。後に規約の案を示しますので皆様のご意見をお寄せ頂ければ幸いです。いずれにしても、新しい規約により新編集委員長が決まるまでは力武先生にお務め頂けることになっております。学会誌は今回の学会名変更の機会に更に盛り立てて行かなければなりません。特にスペース関係の論文は現在も投稿が大変少ないようでありますので、皆様のご協力を特にお願致します。

さて、上記のJGG編集委員の一人として本学会に貢献してこられましたスタンフォード大学 Alan Cox 教授が1月末にお亡くなりになりました。これまでのご貢献に対して感謝致しますと共に冥福をお祈りいたしたいと思えます。

次に、前小嶋会長宛に昨年末 AGU の Foreign Secretary の Roederer 教授から本学会と AGU との間の協力関係を強めたいという申し入れがあり、現運営委員会でも議論頂いておりますが、さしあたっては今秋に仙台で開かれる Plasma 波動関係の Chapman シンポジウムは両学会の共催となっておりますし、その他本学会の総会、講演会などのニュースを積極的に AGU に報せること、例えば EOS に載せてもらうことが考えられます。また、学会講演予稿集の論文タイトル名と著者名を和文英文併記して外国人の会員にも我学会の Activity を知ってもらえるようにすること、また秋の AGU の総会に当学会の若手研究者の参加を奨励すること等をしてはと考えております。

AGU に関連して会員の朗報の1つは AGU で35才未満の若手研究者を対象とした J.D. Macelwane 賞を京大理学部寺沢敏夫会員が受賞されることになったことであります。また、国内の受賞関係では、広島大学佐藤哲也会員が、「散逸性磁気流体プラズマの非線形ダイナミクス」に対して仁科

記念賞を受賞されたこと、又東大地震研究所の上田誠也会員の「孤状列島のテクトニクスに関する地球熱学的研究」に対して学士院賞の受賞が決まったことであり、ご同慶の至りであります。

今81回の総会では、西田篤弘、行武毅両会員にレビュー講演をお願いしましたが、総会講演会で関連する分野がパラレルセッションとならざるを得ない現状と、お互いに本学会の全ての分野に関心を持って頂くために、今後毎回一般講演の1つのセッション程度を単位として、国内の研究者の最近の仕事をレビューして頂く企画を始めてみました。しかし、その分野の全ての仕事を漏れなくレビューして頂くことは大変なロードとなりますので、レビューアの方々にはあまり堅くお考えにならず気楽にお考え下さって結構ですという条件でお願いしております。お聞き下さる方も、今後その点ご了解頂きたいと存じます。今後ともこの企画が長続きますようお願い致します。

一方、財政面では今回学会名称変更などにもなった出費増などもあり、一般に財政はかなり厳しくなっておりますので総会講演会への参加費又は講演会への論文投稿費のような形ででも財政を助ける方策を実施する必要があると思います。この点に関し、ご意見を頂きたいと存じます。

田中館賞についても現在50万円の基金の利息で運用しておりますが、最近のように低金利の時代には利息だけでは年1~2名程度しか差し上げられません。5月5日開催の評議員会では、財政的理由だけで件数を制限すべきでないということになり、4件の授賞が決まりましたが評議員会が中心となって早急に基金を増やすべく努力をすることになりました。会員の皆様にも広くご賛同ご協力をお願い致します。

IV 運営委員会報告

前回会報以後、第143,144回運営委員会がそれぞれ3月17日、4月4日に開催された。第81回総会の準備以外に、長谷川記念候補者の推薦、名誉会員候補者の推薦、JGG編集委員会規約改正、61年度決算・62年度予算案の検討、学会財政問題、新学会名のもとの新活動等が議論された。

新活動として今回は広報活動用の宣伝ポスターの製作、学会会員名簿の改訂が検討された。なお、広報用のポスターに用いられたオーロラの写真は国立極地研究所の好意によるものである。

会員名簿の改訂については、経費節減のため変更の必要な会員のみ別項に掲載の変更届を学会事務センターまで郵送していただくことになる予定である。

JGG編集委員会に関する規約改正については、これまで編集委員長の選出に関する規定が学会会則の中に規定されていないので、その改定と関連事項の改定を行なうべく検討が現在進められている。

学会の財政問題についても見直しが行なわれた。会費の値上げは四年前に行なわれ、その後二年間は黒字財政であったが、61年度と62年度は単年度としては赤字となっている。従ってなんらかの手立てを講じなければ63年度は赤字予算となり破綻をきたすことが予想される。

新入会員、退会会員は別項に掲げるとおり認められた。

V 決算報告および予算書

昭和61年度決算

昭和61年4月1日～昭和62年3月31日

収入の部				
科目	61年予算額	決算額	差異	備考
会費	4,854,600	4,736,912	-117,688	
正会員	3,810,000	3,802,000		
学生会員	175,800	240,000		
海外会費	268,800	194,912		
賛助会員	600,000	500,000		
出版助成金	9,930,000	5,850,000	-4,080,000	
予稿集売上代	1,000,000	914,400	-85,600	
利子収入	280,000	223,685	-56,315	
雑収入	0	4,493	4,493	
小計	16,064,600	11,729,490	-4,335,110	
前期繰越金	1,401,260	1,401,260		
合計	17,465,860	13,130,750		
支出の部				
科目	61年予算額	決算額	差異	備考
管理費	2,280,000	2,755,663	-475,663	
業務委託費	1,850,000	1,915,751		
通信費	160,000	399,553		※学会名変更に伴う経費増
印刷費	60,000	118,215		※学会名変更に伴う経費増
会合費	40,000	19,670		
旅費	150,000	177,120		
雑費	20,000	125,354		※学会名変更に伴う経費増
事業費	13,090,000	8,937,983	4,152,017	
会誌分担金	10,230,000	6,150,000		
発送費	600,000	734,530		13回発送
会報印刷費	150,000	137,700		
発送費	150,000	111,090		4回発送
大会開催費	950,000	794,663		
予稿集印刷代	1,010,000	1,010,000		
基金繰入金	600,000	500,000	100,000	
予備費	100,000	0	100,000	
小計	16,070,000	12,193,646	3,876,354	
次期繰越金	1,395,860	937,104		
合計	17,465,860	13,130,750		

昭和62年度予算

昭和62年4月1日～昭和63年3月31日

収入の部				
科 目	62年予算案	61年予算案	61年決算額	備 考
会 費	4,868,000	4,854,600	4,736,912	回収率
正 会 員	3,876,000	3,810,000	3,802,000	510 × 8000 × .95
学 生 会 員	190,000	175,800	240,000	40 × 5000 × .95
海 外 会 員	252,000	268,800	194,912	45 × 8000 × .7
賛 助 会 員	550,000	600,000	500,000	11 × 50000
出版助成金	9,504,000	9,930,000	5,850,000	
予稿集売上代	1,000,000	1,000,000	914,400	
利子収入	240,000	280,000	223,685	
雑収入	0	0	4,493	
小 計	15,612,000	16,064,600	11,729,490	
前期繰越金	937,104	1,401,260	1,401,260	
合 計	16,549,104	17,465,860	13,130,750	
支出の部				
科 目	62年予算案	61年予算案	61年決算額	備 考
管 理 費	2,400,000	2,280,000	2,755,663	
業務委託費	1,850,000	1,850,000	1,915,751	
通 信 費	200,000	160,000	399,553	
印 刷 費	140,000	60,000	118,215	
会 合 費	40,000	40,000	19,670	
旅 費	150,000	150,000	177,120	
雑 費	20,000	20,000	125,354	
事 業 費	12,844,000	13,090,000	8,937,983	
会誌分担金	9,804,000	10,230,000	6,150,000	
発送費	650,000	600,000	734,530	
会報印刷費	150,000	150,000	137,700	
発送費	150,000	150,000	111,090	
大会開催費	950,000	950,000	794,663	
予稿集印刷代	1,010,000	1,010,000	1,010,000	
広報活動費	130,000	0	0	ポスター製作費
基金繰入金	550,000	600,000	500,000	
予備費	530,000	100,000	0	(名簿作成費43万)
小 計	16,324,000	16,070,000	12,193,646	
次期繰越金	225,104	1,395,860	937,104	
合 計	16,549,104	17,465,860	13,130,750	

＜ 特 別 会 計 ＞

田 中 館 賞 (昭和61年度)

収入の部			支出の部		
科目	決算額	備考	科目	決算額	備考
利子収入	22,133		賞碑代	23,410	
前期繰越金	478,937		次期繰越金	477,660	
合 計	501,070		合 計	501,070	

長谷川基金

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
利子収入	33,151	賞杯代	0
前期繰越金	405,443	次期繰越金	438,594
合 計	438,594	合 計	438,594

学 会 基 金

科目	決算額
一般会計より繰入	500,000
繰越金	4,850,000
合 計	5,350,000

(注) 利子は一般会計へ繰入

VI 第82回総会ならびに講演会のお知らせ

1. 期 間 昭和62年9月28日(月)～30日(水)
 2. 会 場 信州大学 教養部
 (連絡先) 0263-35-4600 (内線) 4165 百瀬實一会員

3. 会場への交通

松本電鉄バス

- ◎ 松本駅から — 松本バスターミナル(駅前)
 イトーヨーカ堂地階(6番のりば)
 行バス(新町経由) 浅間温泉行 信州大西門下車(駅から約15分)
- ◎ 浅間温泉から — 松本バスターミナル行バス 信大西門下車(温泉から約10分)
- ◎ 新浅間温泉から — 徒歩 約15分

駐車場案内

キャンパス内には駐車場の余裕はありません。
 キャンパス北側に有料駐車場(約120台分)があります。
 ￥200.- 15時間

4. 宿泊施設案内

各自、早目に申し込んで下さい。

旅 館 名	T E L	旅 館 名	T E L
・松本駅周辺	松本(0263)	ホテルよろづや	32-1135
いちやま旅館	32-0122	・松本グリーンホテル	35-1277
喜 楽 荘	36-5171	・松本タウンホテル	32-3339
清水元旅館	32-0899	松本ツーリストホテル	33-9000
住 村 旅館	32-4823	・松本東急イン	36-0109
霜 月 旅館	33-3786	・松本第2東急イン	36-0109
ナルミ旅館	35-8617	松本マウントホテル	35-6480
林 屋 旅館	32-3535	旅館式部荘	32-9016
ふじや旅館	32-1176	旅館清隆荘	32-6472
・ホテル飯田屋	32-0027	・ホテル大一屋	32-1066
・ホテル遠條	32-2387	旅館・料理 月見家	25-6354
ホテルおたりや	32-1430	旅館 松 風	25-7318
ホテル京の川	26-1733	ホテル大手	36-0516
ホテルしろきや	33-1311	信 濃 荘	33-2173
・ホテル新升	32-0980	松本シティホテル	32-5025
・ホテルニューステーション	35-3850	民宿たばこや	32-5898
ホテルみふきや	32-0031	・印は松本駅へ5分以内	

5. 田中館賞候補者推薦

田中館賞候補者審査に十分な時間をかけられるように、次回から推薦の〆切を総会の1ヶ月半前迄と致します。推薦は会長宛文書にてお願い致します。

VII 新 入 会 員 等

運営委員会で次の方々の入会が承認されました。

(*印 学生会員)

鈴木 裕 武 (立教大理)*

山 崎 宣 悦 (㈱レイデオック)

伊 藤 孝 (㈱ダイヤコンサルタント)

内 海 通 弘 (九大 理)

杉 浦 直 治 (東 大 理)

政 枝 宏 (㈱ダイヤコンサルタント)

石 川 秀 浩 (東海大海洋)*

糸 田 千 鶴 (神戸大理)*

内 村 英 雄 (東京工大理)*

遠 藤 尚 彦 (東京工大理)*

森 尻 理 恵 (千葉大理)*

芝 地 貴 夫 (東 大 理)*

中 村 る み (東 大 理)*

小 池 真 (東 大 理)*

久 世 暁 彦 (東 大 理)*

また、次の5名の方が退会されました。

鈴木 国 弘

塩 見 正

永 井 正 男

仲 井 猛 敏

石 原 良 俊

VIII JGG 編集委員会に関する学会規約改正について

第81回地球電磁気・地球惑星圏学会においてJGG編集委員会に関する学会規約改正案が運営委員会より提出され、趣旨説明がなされた。規約改正の直接の必要性は、力武JGG編集委員長の辞意に伴い、現在新編集委員長を選出する必要性が生じているが、現行の学会規約には編集委員会の委員長および委員の選出方法に関するはっきりした規定がないことにある。このためこの件に関し、編集委員会から規約改正案が会長あてに提出された。この改正案に基づき、運営委員会では規約改正案の検討を二度にわたって行った。改正案作成に際しては、編集委員会、運営委員会ともこれを機会に学会誌をさらに発展させるべく編集委員会の体制を強化する方向が検討された。

運営委員会の改正案は下記の通りであるが、JGGが地球内部と外部の二つの大きな研究領域をもつことから、編集委員会に委員長と副委員長を設け、両分野を並行して発展させる体制をとったことが最大の特徴である。この改正案では、委員長、副委員長および委員の選出方法と任期等は、すべて内規で決められることになる。内規の検討もすでに進んでいるが、運営委員会では広く学会員の意見を聞き、最終案をまとめるよう努力中である。

規約および内規改正の最終案は秋の第82回総会に提案される予定である。学会誌の一層の発展のため、学会員のご協力をお願いいたします。

規 約

〔現行〕

第1章 第3章 2. 機関誌その他必要な資料を刊行すること。

第7章 機関誌編集委員会

第29条 本会に機関誌の編集委員を置く。

編集委員会は委員長及び運営委員会の委嘱する会員で組織する。

編集委員会は委員長が招集し会誌編集に関する一切の事項を処理する。

〔改正案〕

第1章 第3条 2. 学会誌その他必要な資料を刊行すること。

第7章 学会誌編集委員会

第29条 本会に学会誌の編集委員会をおく。

第30条 編集委員会は委員長、副委員長及び編集委員で組織する。

第31条 編集委員長、副委員長及び編集委員は内規の定めるところに従って決める。

第32条 編集委員会は、編集委員長が招集し、学会誌編集に関する一切の事項を処理する。

IX 会員名簿改訂のお知らせ

学会名変更に伴い新名簿を作成いたします。(1987年8月発行予定)

就きましては、旧名簿(1984年版)をご参照の上、住所・その他に変更ある方は同封用紙の該当事項に赤色の字でご記入の上、下記連絡先まで郵送にてお送り下さい。

なお、学生会員の方は、住所その他の変更がなくとも、在学証明書を添付の上、ご返送下さい。返信のない場合には、正会員(会費8,000円/年)として登録されますのでご注意下さい。

◎ 注 意 事 項

1. 会員番号は下記の要領にてお読みとりの上、必ずご記入下さい。
(封筒の宛名ラベル 027-013-0001 又は会費振込用紙 027-013-0001)
2. 変更該当事項を赤色の字でご記入下さい。
3. 学生会員の方は、変更がなくとも、在学証明書を添付の上ご返送下さい。
4. 事務名簿の作製上、7月15日までに必ずご返送下さい。

◎ 連 絡 先

〒113 東京都文京区弥生2-4-16 (財)日本学会事務センター内
地球電磁気・地球惑星圏学会名簿係 TEL. 03-817-5801

なお、下記の方々の住所が不明です。消息を御存知の方は学会へ御一報下さい。

氏 名

稲 田 清 夫	世田谷区三宿2-37-20
岩 越 朗	川崎市高津区千年926 日本光学顕光寮
近 藤 五 郎	上尾市1499-18
内 藤 靖 史	静岡市千代田3-3-24
内 藤 悠 史	宇治市五ヶ庄 京都大学工学部
吉 田 徳 久	世田谷区船橋2-21-25
吉 富 博 之	田川市東区旭町 旭町コーポ205
大 野 正 夫	文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所

X 広 報 活 動

運営委員会では学会名変更を機に、積極的かつ継続的な広報活動に取り組む方針です。春の本学会の際に配布しました。カラーポスターは山越運営委員の御尽力によって出来たものです。現在多くの関連機関に掲示されております。その出来栄えがなかなか好評を博していると同っています。なお、ポスター中央を飾るオーロラの写真は国立極地研究所の御好意により提供していただいたものです。この場を借りて御礼を申し上げます。

学会プログラムや会報も少し体裁を変えました。しかしまだ他にやらねばならないことが山積しているように思います。お気付きの点や御意見を是非学会へお寄せ下さい。

なお、学会名称変更を下記団体に通知しましたが、他に必要と思われるところがありましたらこれも学会迄御連絡下さい。

日本学術会議

日本学術振興会

日本物理学会

地球化学会

火山学会

天文学会

地質学会

日本気象学会

電子情報通信学会

電気学会

American Geophysical Union

学会誌刊行センター

科学新聞

山田科学振興財団

三菱財団

日本証券奨学財団

井上科学振興財団

東レ科学振興会

日産科学振興財団

KDDエンジニアリング・

アンド・コンサルティング

XI 学 会 財 政 事 情

昭和62年4月5日～7日に開催された第81回講演会の際行われた総会にて承認された昭和61年度決算報告と昭和62年度予算案をVに掲載しました。昨年度と今年度、次期繰越金が激減しておりますが、この事に関連して図1に最近10年間の収入と支出状況の推移を示します。前回の会費値上げ(58年度)以降続いていた黒字から、昨年度と今年度、赤字になっているのが次期繰越金の減少とになっているわけです。これは学会名変更に伴った経費増がかさんだことがその一因ではありますが、学会員からの会費収入減と物価上昇に伴う全般的な経費増も原因となっています。運営委員会ではこの状況を真剣にうけとめて議論していますが、収入増を図るほかありません。しかし、会費値上

げはできるだけ避けて他の方法、例えば、講演会の発表申込の有料化（投稿料）や参加料（登録料）について検討をはじめました。御意見を会計担当（向井、本蔵）または最寄りの運営委員までお寄せ下さい。また、学会名も新しくなったことでもあり、新学会名にふさわしく会員数を増やすことが必要なことはいうまでもありません。学会員全員の御協力を期待したいところですので、宜しくをお願いします。

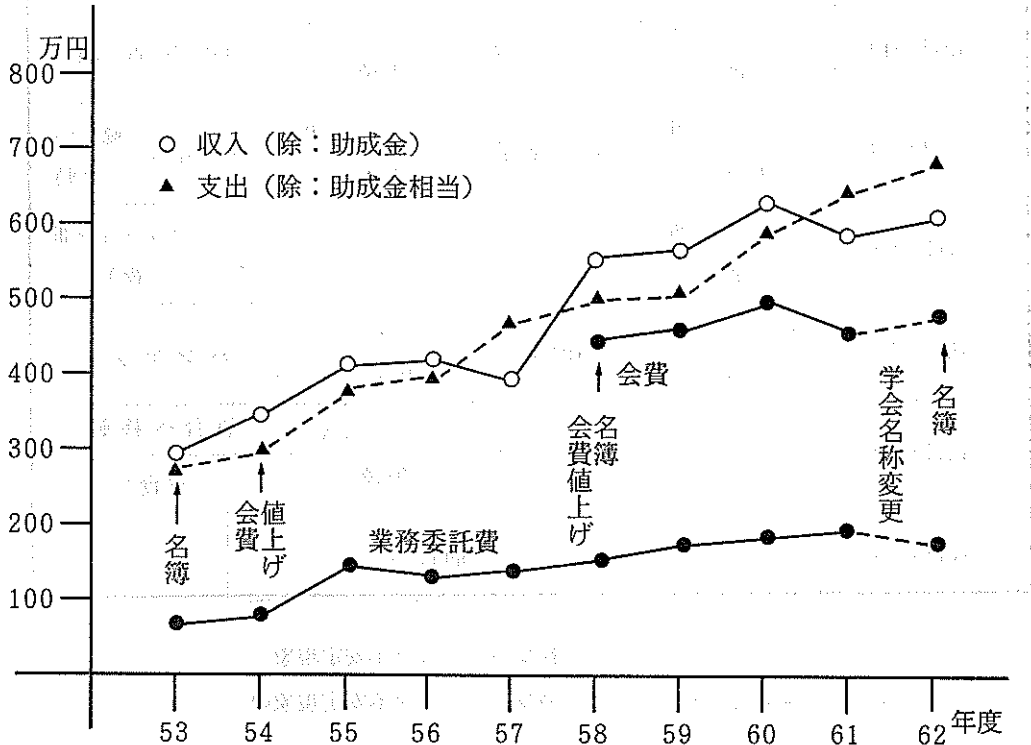


図 1

XII シンポジウム等案内

1. 仙台チャップマン会議の開催

「磁気圏ならびに彗星におけるプラズマ波動および不安定」に関するチャップマン会議

(Chapman Conference on "Plasma Waves and Instabilities in Magnetospheres and at Comets")

主 催 東北大学理学部

共 催 米国地球物理学連合及び地球電磁気・地球惑星圏学会

コンビーナー B. Tsurutani (JPL), 大家 寛 (東北大)

開催地(会場)：10月11日～13日 仙台市, 仙台プラザホテル
 10月14日～16日 蔵王町, ホテルサンルート蔵王
 宮城蔵王ロイヤルホテル

	8時	12	14	18	22
10月11日(日)	レジストレーション			レセプション	
12日(月)	セッションⅠ (午前)	昼 食	セッションⅠ (午後)	自由時間	
13日(火)	セッションⅡ (午前)	大学見学	セッションⅡ (午後)	夕食	蔵王へ 移動
14日(水)	セッションⅢ (午前)	スポーツ, バスツアー			セッションⅢ (夜)
15日(木)	セッションⅣ (午前)	観測所見学	ポスター セッション	バンケット	
16日(金)	セッションⅤ (午前)	昼 食	セッションⅤ (午後)	仙台へ移動 (夕食)	
17日(土)	蔵王バスツアー, 仙台へ				

- セッションⅠ 彗星におけるプラズマ波動及びプラズマ不安定現象
 セッションⅡ 非線形現象とプラズマ波動及びプラズマ不安定現象のコンピューター
 シミュレーション
 セッションⅢ 惑星磁気圏における ELF 及び VLF 波動の励起と伝搬
 セッションⅣ 惑星磁気圏における電磁流体波の励起と伝搬
 セッションⅤ 惑星からの電波放射

本会議は、米国地球物理学連合 (American Geophysical Union) により毎年米国内で開催される特別会議で、超高層物理学の創始者シドニー・チャップマン博士の業績を讃え、その名を冠しており、世界各国から高い評価を得ている。今回は、この伝統ある会議を東北大学が日本に招き、「磁気圏ならびに彗星におけるプラズマ波動および不安定」という議題のもとに、米国地球物理学連合と地球電磁気・地球惑星圏学会との共催で仙台市を中心に5日間にわたって開催する。日本、米国、ならびに一部ヨーロッパからの研究者が多数参加し、表題の分野における最新の研究成果の発表と情報交換を行うが、宇宙空間プラズマ波動研究の分野で歴史に残る意義ある会議となること

が期待される。アブストラクト切は6月15日。ご関心のおありの方は下記あてにご連絡下さい。

◇ 連絡先 〒980 仙台市荒巻字青葉 東北大学理学部

大 家 寛 TEL 022-222-1800 内 3332

福 西 浩 TEL " 内 3582

2. Space Active Experiments に関する京都ワークショップの御案内

今年の秋、仙台で開催されるチャップマン会議に引き続き、10月19、20日にホテル京阪で宇宙における能動実験に関する国際ワークショップが開かれます。トピックスとしては、

- 1) 地上からの VLF 波送信実験
- 2) ロケット・衛星からの SHF/HF 波の入射実験
- 3) 地上送信機による電離層加熱と波動励起実験
- 4) 宇宙飛翔体からの電子・イオンビーム放出実験
- 5) 宇宙飛翔体からのプラズマ放出実験
- 6) 化学物質放出実験・臨界電離現象実験
- 7) 宇宙プラズマの能動的手段によるプロービング
- 8) 宇宙能動実験に関する理論・シミュレーション
- 9) その他

が考えられている。外国からの参加者は約30名が見込まれている。

ご関心のおありの方は木村磐根会員（京大・工）または松本 紘会員（京大・超高層）に六月中旬頃までにご連絡下さい。

XIII そ の 他

本年度科学研究費受領状況を会報で紹介したいと思います。総合(A), (B)並びに一般(A), (B)の代表者は深尾運営委員迄お知らせ下さい。また最近各大学で審査をパスした博士学位論文の論文名、氏名、大学名を深尾まで御連絡下さい。

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第 115 号 会 報 1987年 6 月 1 日

目 次

I 第81回総会ならびに講演会	1
II 田中館賞審査報告	2
III 会 長 挨拶	5
IV 運営委員会報告	6
V 決算報告および予算案	7
VI 第82回総会ならびに講演会のお知らせ	10
VII 新 入 会 員 等	11
VIII JGG 編集委員会に関する学会規約改正について	12
IX 会員名簿改訂のお知らせ	13
X 広 報 活 動	14
XI 学会財政事情	14
XII シンポジウム等案内	15
XIII そ の 他	17

I 第81回 総会ならびに講演会

第81回総会が4月6日に千葉大学のお世話で同大学法経学部において開催された。鶴田議長選出の後、大会委員長の木下会員の挨拶があり、引続き木村会長から田中館賞の授与、審査報告がなされた。田中館賞は別項に掲げる四名の会員の論文に対し与えられた。

続いて木村会長挨拶の後、運営委員会庶務報告、会誌発刊状況報告が行なわれた。

議事に入り、力武常次会員(1972年6月長谷川記念杯贈呈)を本学会名誉会員に推挙したい旨の